

平成21年度第1回 かわさき市民アンケート 概要版

調 査 の 概 要

調査設計等	◆調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ◆標本数 3,000 標本 ◆標本抽出 住民基本台帳及び外国人登録原票からの層化二段無作為抽出	◆調査方法 郵送法 ◆調査期間 平成21年7月16日(木)～8月5日(水) ◆有効回収数 1,471 標本 ◆有効回収率 49.0%
調査項目	1 新型インフルエンザについて 2 各家庭における災害への備えについて 3 住宅相談について	4 廃棄物処理について 5 生涯学習について 6 川崎市公共施設利用予約システム「ふれあいネット」について

※ 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基 数 (人)	構成比 (%)
1 男性	648	44.1
2 女性	802	54.5
(無回答)	21	1.4
合 計	1,471	100.0

2 居住区別

	基 数 (人)	構成比 (%)
1 川崎区	202	13.7
2 幸区	154	10.5
3 中原区	253	17.2
4 高津区	223	15.2
5 宮前区	221	15.0
6 多摩区	219	14.9
7 麻生区	183	12.4
(無回答)	16	1.1
合 計	1,471	100.0

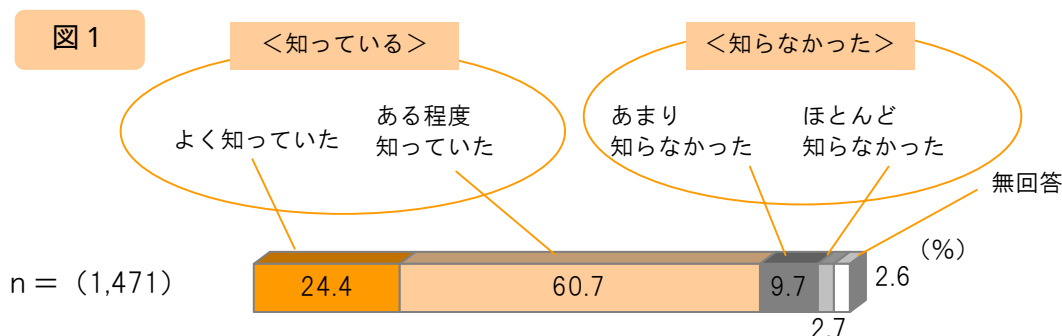
3 性／年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基 数 (人)	構成比 (%)	基 数 (人)	構成比 (%)	基 数 (人)	構成比 (%)	基 数 (人)	構成比 (%)
1 20歳代	149	10.1	55	8.5	94	11.7	0	0.0
2 30歳代	332	22.6	140	21.6	191	23.8	1	4.8
3 40歳代	291	19.8	123	19.0	168	20.9	0	0.0
4 50歳代	250	17.0	121	18.7	129	16.1	0	0.0
5 60歳代	276	18.8	137	21.1	138	17.2	1	4.8
6 70歳以上	153	10.4	72	11.1	81	10.1	0	0.0
(無回答)	20	1.4	0	0.0	1	0.1	19	90.5
合 計	1,471	100.0	648	100.0	802	100.0	21	100.0

1 新型インフルエンザについて

1 新型インフルエンザの特徴の認知状況

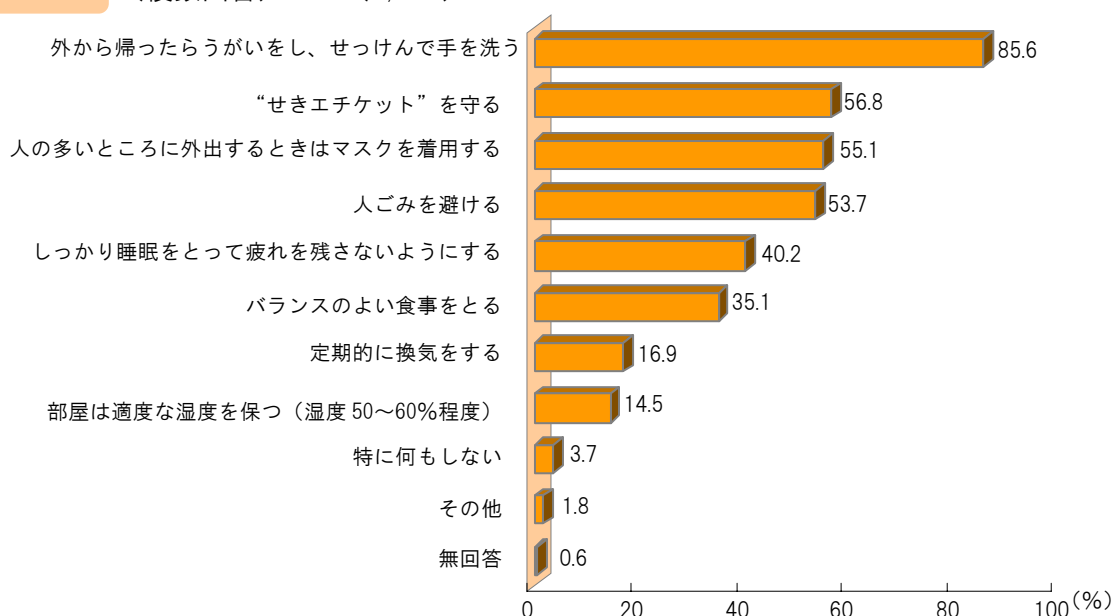
新型インフルエンザの特徴の認知状況を聞いた。「よく知っていた」(24.4%)と「ある程度知っていた」(60.7%)を合わせた<知っている>は8割を超えている。



2 新型インフルエンザの対策として心掛けていること

新型インフルエンザの対策として心掛けていることを聞いた。「外から帰ったらうがいをし、せっけんで手を洗う」(85.6%)が8割を超え最も高くなっている。次いで、「“せきエチケット”を守る」(56.8%)、「人の多いところに出るときはマスクを着用する」(55.1%)、「人ごみを避ける」(53.7%)の順が続いている。

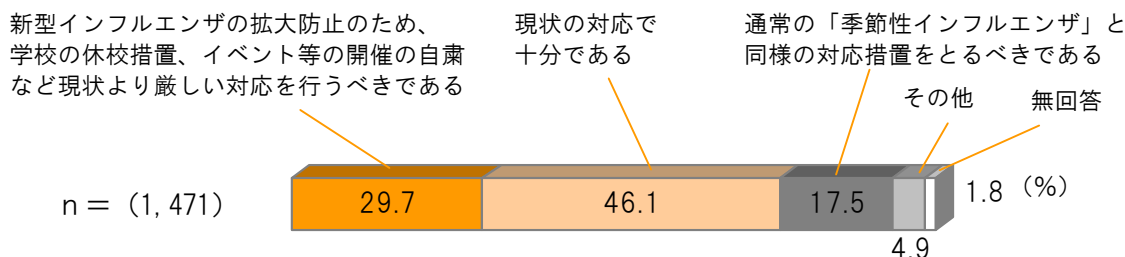
図2 (複数回答) n = (1,471)



3 新型インフルエンザに対する国や市の対応状況について

新型インフルエンザに対する国や市の対応状況について聞いた。「現状の対応で十分である」(46.1%)が4割を超えている。「新型インフルエンザの拡大防止のため、学校の休校措置、イベント等の開催の自粛など現状より厳しい対応を行うべきである」(29.7%)は約3割となっている。

図3

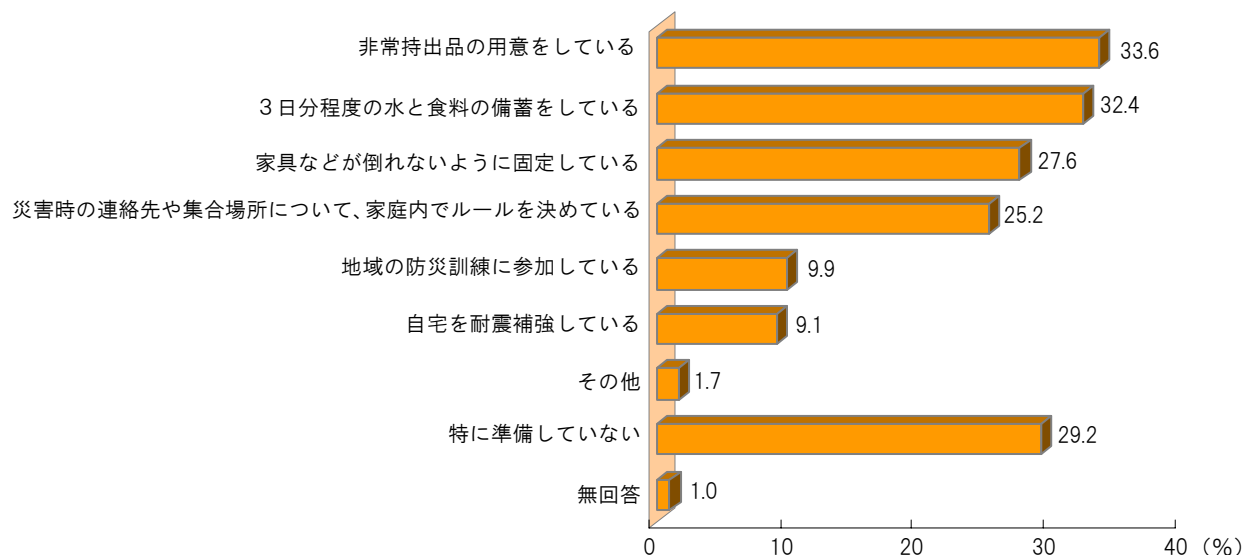


2 各家庭における災害への備えについて

1 普段から大規模地震の発生に備えていること

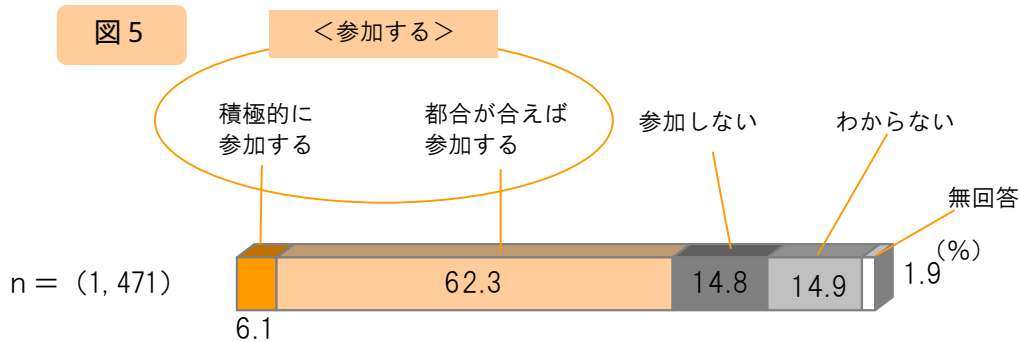
普段から大規模地震の発生に備えていることを聞いた。「非常持出品の用意をしている」(33.6%)、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」(32.4%)が3割台と高くなっている。一方、「特に準備していない」(29.2%)は約3割である。

図4 (複数回答) n = (1,471)



2 防災知識の向上を図る学習会等への参加意向

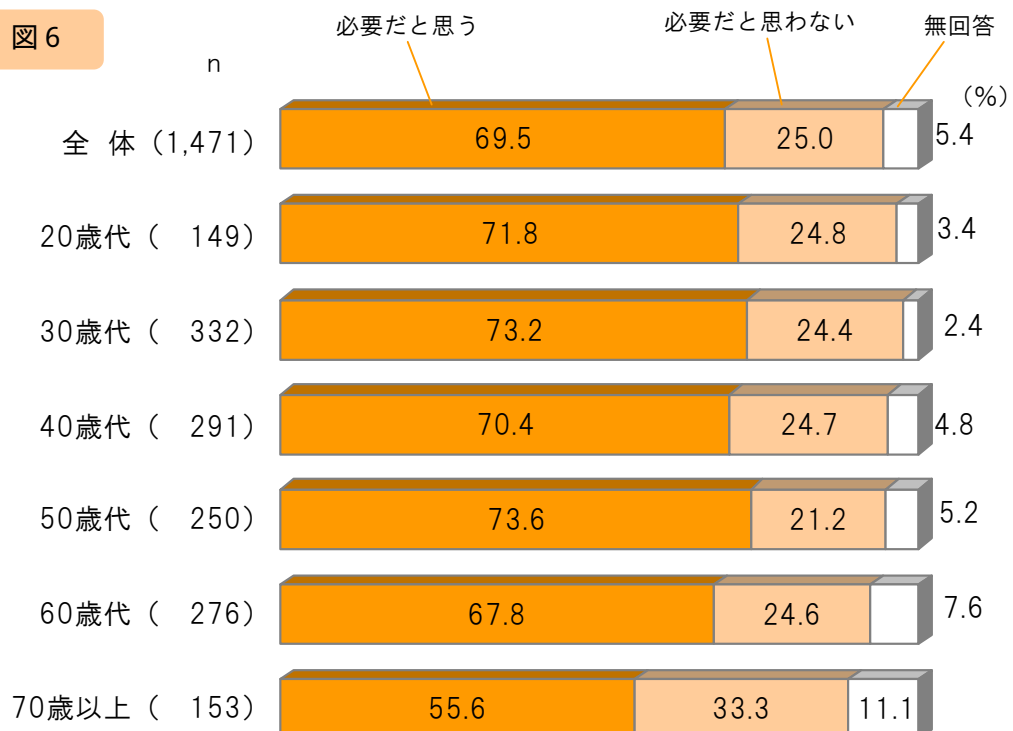
防災知識の向上を図る学習会等への参加意向を聞いた。「積極的に参加する」(6.1%)と「都合が合えば参加する」(62.3%)を合わせた<参加する>は約7割となっている。



3 住宅相談について

1 ライフステージにあわせた住替えを支援する相談窓口の要否

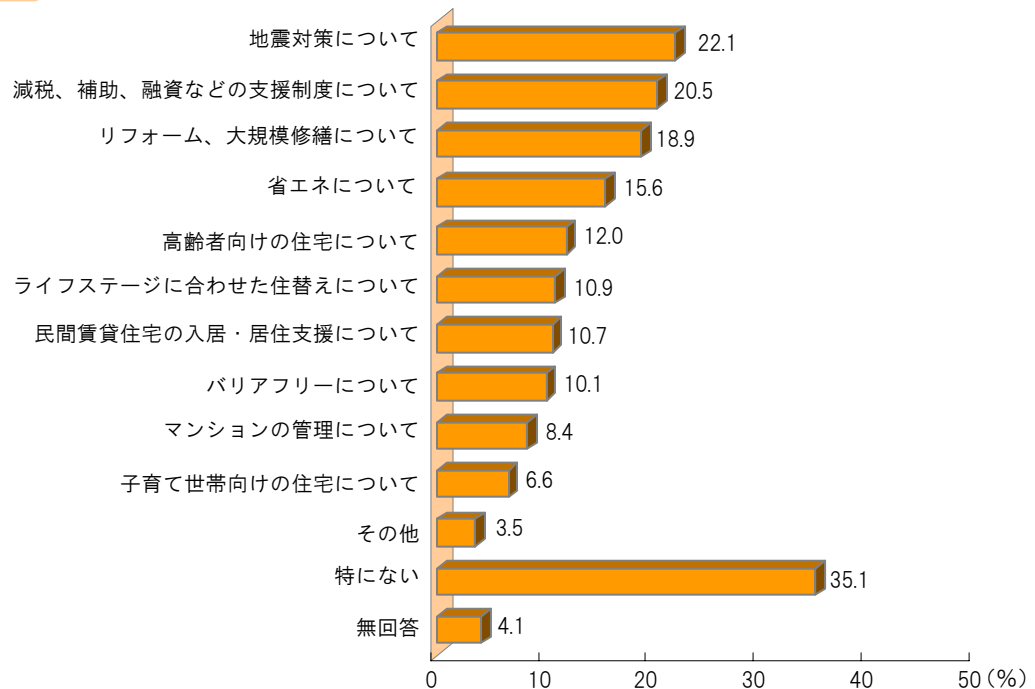
ライフステージにあわせた住替えを支援する相談窓口が必要かを聞いた。全体では「必要だと思う」(69.5%)が約7割と高い。年代別でみると、70歳代以上は「必要だと思う」(55.6%)が最も低くなっている。



2 住宅に関して困っていることや相談したい内容

住宅に関して困っていることについて聞いた。「地震対策について」(22.1%)、「減税、補助、融資などの支援制度について」(20.5%)、「リフォーム、大規模修繕について」(18.9%)が2割前後となっている。一方、「特にない」(35.1%)が3割を超えている。

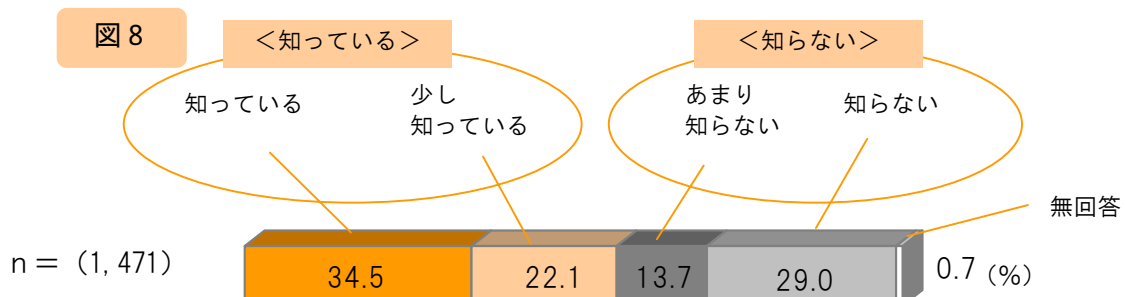
図7 (複数回答) n = (1,471)



4 廃棄物処理について

1 3R(スリーアール)の認知状況

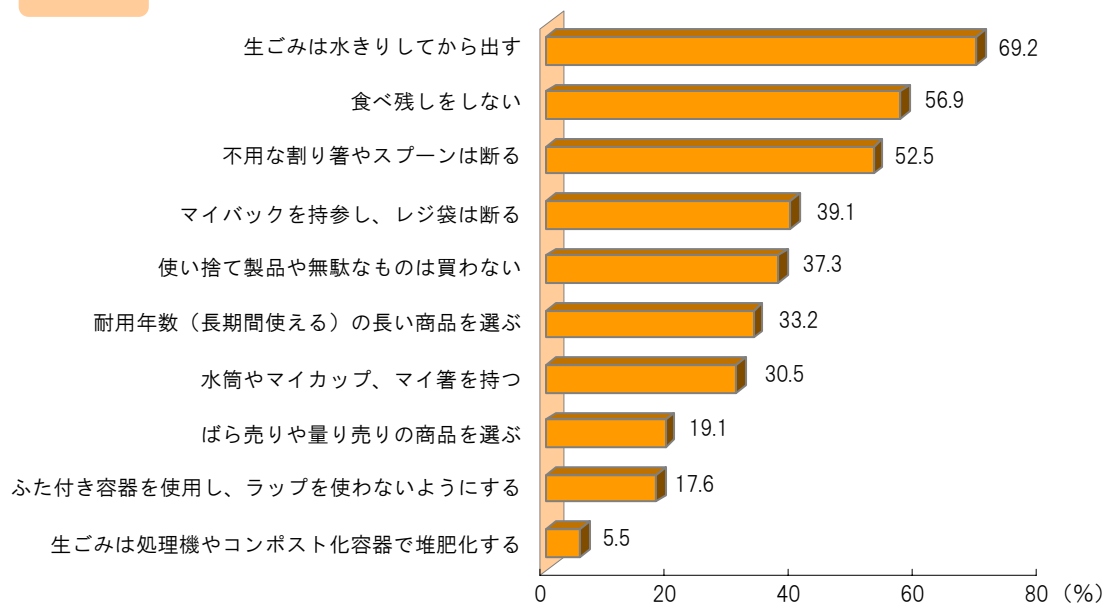
3R(スリーアール)の認知状況を聞いた。「知っている」(34.5%)と「少し知っている」(22.1%)を合わせた<知っている>は5割を超えており、「あまり知らない」(13.7%)と「知らない」(29.0%)を合わせた<知らない>は4割を超えている。



2 リデュース（ごみを出さないこと）について実施していること

リデュース（ごみを出さないこと）について実施していることを聞いた。「生ごみは水きりしてから出す」(69.2%) が特に高くなっている。次いで、「食べ残しをしない」(56.9%)、「不用な割り箸やスプーンは断る」(52.5%) が5割を超えている。

図9 （複数回答） n = (1,471)

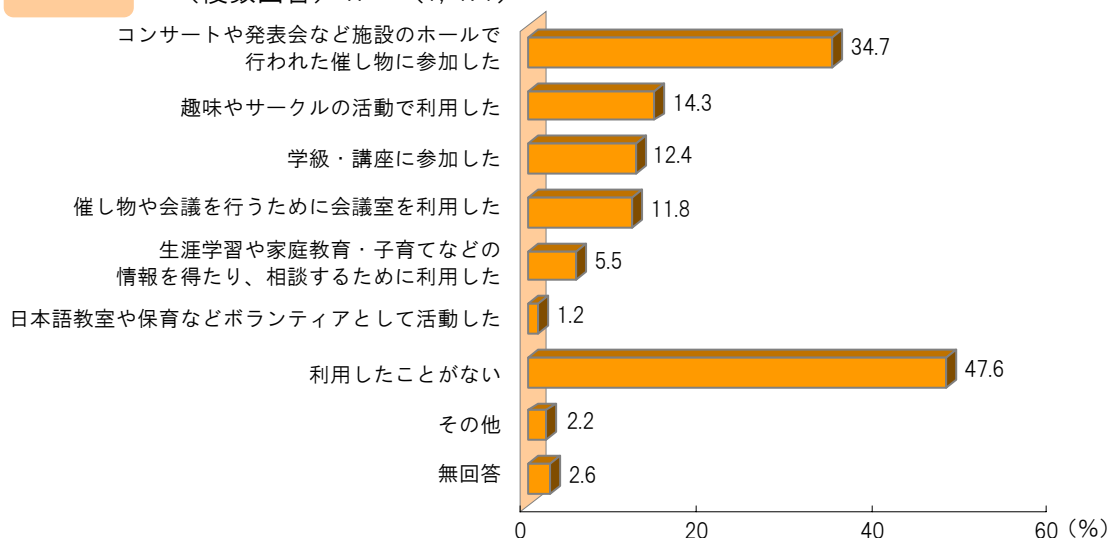


5 生涯学習について

1 市民館等の利用内容

市民館等の利用内容を聞いた。「コンサートや発表会など施設のホールで行われた催し物に参加した」(34.7%) が3割を超えている。一方、「利用したことがない」(47.6%) は約5割となっている。

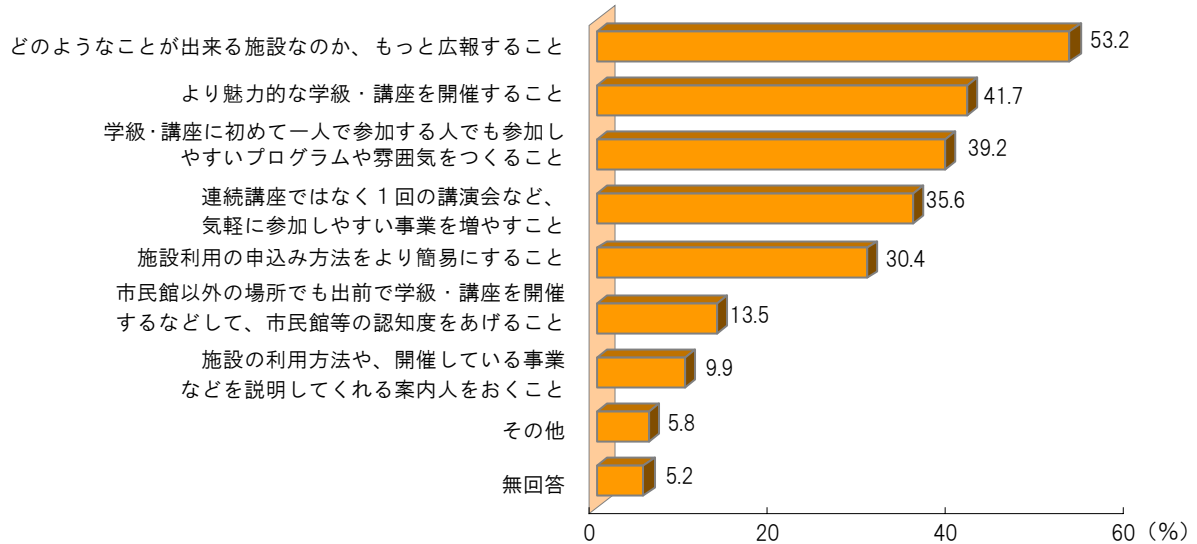
図10 （複数回答） n = (1,471)



2 市民館等を利用してもらうための工夫

市民館等を利用してもらうための工夫を聞いた。「どのようなことが出来る施設なのか、もっと広報すること」(53.2%)が5割を超えて特に高くなっている。

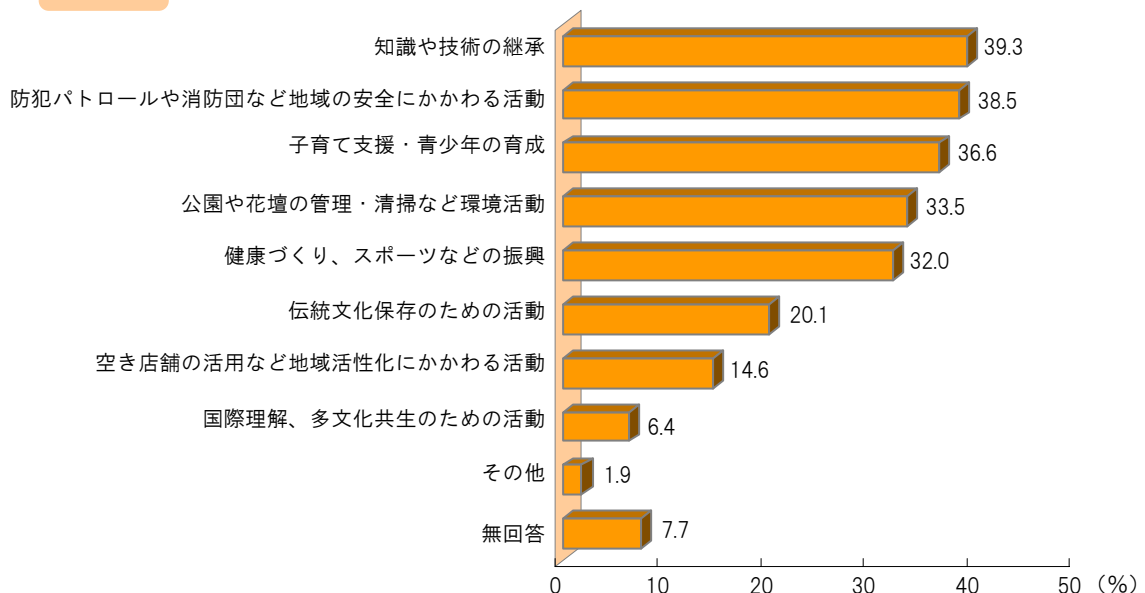
図 11 (複数回答) n = (1, 471)



3 地域の中でシニア世代に期待すること

地域の中でシニア世代に期待することを聞いた。「知識や技術の継承」(39.3%)「防犯パトロールや消防団など地域の安全にかかわる活動」(38.5%)「子育て支援・青少年の育成」(36.6%)「公園や花壇の管理・清掃など環境活動」(33.5%)「健康づくり、スポーツなどの振興」(32.0%)が3割を超えている。

図 12 (複数回答) n = (1, 471)

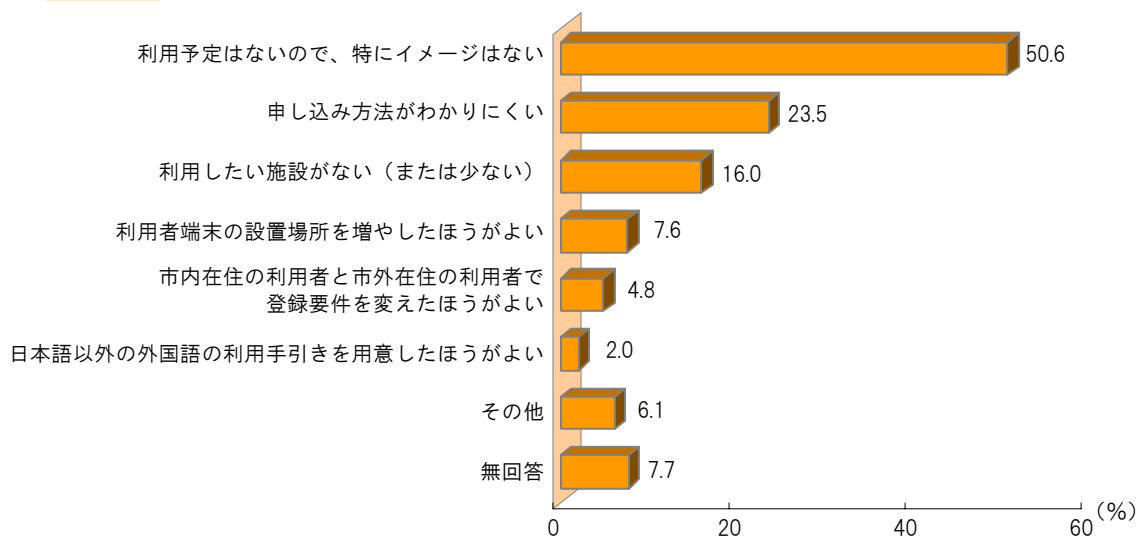


6 川崎市公共施設利用予約システム「ふれあいネット」について

1 「ふれあいネット」のイメージ

川崎市公共施設利用予約システム「ふれあいネット」のイメージを聞いた。「申し込み方法がわかりにくい」(23.5%)が2割を超えている。一方、「利用予定はないので、特にイメージはない」(50.6%)が5割となっている。

図 13 (複数回答) n = (1, 471)



平成21年度第1回かわさき市民アンケート概要版 平成21年10月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
電 話 044-200-2148
FAX 044-200-3919